

衆議院
議員

野中あつし

Times

ケアラー議員連盟
事務局長



● 想いは熱し!!

Atushi Nonaka

自民・公明連立政権で 誰ひとり取り残さない 社会を作る!!



こしみず恵一
公明党埼玉本部副代表
(前衆議院議員)
と前進!

ケアラー支援を求めて

皆さん、「ケアラー」という言葉をご存知ですか？
ケアラーとは介護・看病、療育を要する家族や近親者の方々のことを無償で補助や介護する人のことです。その対象は高齢者に限りません。障がいのある方、難病と戦う患者さん、依存症に苦しむ方や引きこもりとなってしまう方、老若男女問わず多岐にわたります。
日本は高齢化社会となり増加傾向は加速、今後はさらに増えていくことが予想されます。そんな時代のケアラーさん達の心

身への負担は、大きな社会問題となつていきます。
介護のために仕事ができないまたは仕事を続けながらの介護これによりコミュニケーションがとれず孤立を招き「介護うつ」となるケースもあります。また今年4月の全国調査で中学2年生の5.7%、全日制高校2年生の4.1%がヤングケアラーである事が明らかになりました。ヤングケアラーとは親、祖父母、きょうだいなどの介護や世話をしている18歳未満の子供たちです。「家族」のためにケアするという事はとても大切な事ですが、ケアを担っているために同世代の子供達のような生活を送れずにいるヤングケアラーをサポートしなければなりません。

そんな日本のケアラーサポート体制は、海外に比べると大きく遅れています。イギリスではケアラー法が施行されており、ケアラーの権利を保障、オーストラリアでもケアラー貢献認識法成立、ドイツ・アメリカ・台湾においても同じような法律があります。日本では2010年に介護の専門家や市民によって「一般社団法人日本ケアラー連盟」が発足したばかりです。

条例施行への活動から

2020年4月に、埼玉県で日本初となるケアラー支援条例が施行されました。
日本初の条例が施行された埼玉県選出の議員として自民・公明連立政権のもとで「誰ひとり取り残さない社会」を作っています。



2020年6月2日 西村大臣へケアラー支援の要望書提出

—ケアラー議員連盟 事務局長として— 安心して在宅介護できる 医療機関や福祉施設と 自治体が連携した社会を



日本ケアラー連盟より
代表理事 牧野 史子様
理事 中嶋 圭子様
お二人との対談を通して

ケアラー議員連盟とのご縁

【野中】 ケアラー議員連盟とのご縁は、私の祖母が体調を崩し、家族で役割分担して介護をしていたことです。今思えば家族全員ケアラーだったのですが、自分の経験を先輩議員に話をしたら「じゃ、君がケアラー議員連盟の事務局長をやってくれ」となったんです。

家族だから介護は当然だと思っていました。家族の人数が多かったので介護をする環境には恵まれていたのですが、それでも誰かの負担が大きくなると家の雰囲気もグスグスすることもありました。祖母の最期を見届けたときは、家族としてしっかり天寿を全うさせることが出来たと思えました。

私自身の経験を経て、いろいろな家庭環境の中で、大変な思いをされている多くの方の負担を軽減できないかなという思いで議員連盟の事務局長を受けました。

日本ケアラー連盟はどういう思いで立ち上げたのですか？



ケアラー議員連盟設立の思い

【牧野】 連盟にはいろいろな方がいらっやあって、それぞれのきっかけはバラバラです。

私自身は26年前の阪神淡路大震災の時、仮設住宅の支援活動をしたのがきっかけです。孤立・孤独問題を抱えた介護者に会いました。子育て中のお母さんへの支援があるように、介護者への支援も必要です。支援が

ないと要介護者も介護者も共倒れしてしまうと感じました。この経験からその後、介護者のリフレッシュを支援する活動をNPO法人アラジンで始め、支援法律を目指しているケアラー連盟にも入れていただきました。連盟は10年前、精神障害の子どもを持つ親御さんの「自分が倒れたら子どもはどうなるのか、何とかしてほしい」という悲鳴のような声をきっかけに集まりました。当事者と研究者がほとんどだった連盟に私は活動者として入れていただき、ゆくゆくは政策を作ってほしいという思いでやってきました。

一億総介護時代

【中嶋】 2025年には団塊の世代も後期高齢者になり、「一億総介護時代」になります。すべての人が施設に入るのには難しいので、結果的に在宅介護にならざるを得ません。介護保険、在宅支援サービス、施設サービスなどがあありますが、家族は24時間付き合わなければなりません。そこで、介護者に対する社会的な認知とか支援が必要だと思っています。在宅サービス、施設サービス、ケアラー支援という3本が揃わないとケアラーさんにはもたないのではな

【中嶋】 2008〜2009年ころから社会保障政策に係る勉強会をしていました。その中で精神障害の子どもを持つ父親が、「要介護者である子どもに対してはいろいろな制度やサービスがあるのに、介護者の自分には何の支援もないのはおかしい」と言われたんです。

【野中】 私も経験してみても、「介護は戦い」だと思いました。祖母の病を皆で支え、戦うという感じです。ふだん私が携わるのは農業とか中小企業政策です。厚生労働は専門性が高いという先入観から、全く触れてこなかったため、体験者ということから議員連盟に携わることになりました。連盟さんのお付き合いは5〜6年になりますかね。河村建夫ケアラー議員連盟会長のもと議員立法をつくるという目標を持ってスタートしましたが、ケアラーという定義の幅が広がってなかなか切り込めませんでした。しかし、ここ1年くらいで認知度が上がってきました。連盟の取り組みがいよいよ実ってき

できて、報道が問題意識を持つようになってきたことが、「誰も取り残さない」という連盟の取り組みと合ってきたのではないのでしょうか。今後はどのような社会像を考えておられるのですか？

【野中】 核家族化、少子化が進み、昔ながらの「向こう三軒両隣」という密な近所づきあいも無くなってしまいました。その中で、国、地方、地域、政治がちゃんと支えていく社会を作らなければいけない。また、2025年の「一億総介護時代」に向け、仕組みづくりをさらに急がなければなりません。

【野中】 核家族化、少子化が進み、昔ながらの「向こう三軒両隣」という密な近所づきあいも無くなってしまいました。その中で、国、地方、地域、政治がちゃんと支えていく社会を作らなければいけない。また、2025年の「一億総介護時代」に向け、仕組みづくりをさらに急がなければなりません。

【野中】 就労しながら介護ができるようなスキームを作る必要がありますね。

【野中】 就労継続は生き甲斐にもつながります。定年の時期とか、平均寿命も変わってきています。意欲がある人に社会を支えてもらうことはいいことです。

【野中】 就労継続は生き甲斐にもつながります。定年の時期とか、平均寿命も変わってきています。意欲がある人に社会を支えてもらうことはいいことです。



安心して介護ができるように

【中嶋】 就労しながら介護ができるようなスキームを作る必要がありますね。

【野中】 就労継続は生き甲斐にもつながります。定年の時期とか、平均寿命も変わってきています。意欲がある人に社会を支えてもらうことはいいことです。

【野中】 就労継続は生き甲斐にもつながります。定年の時期とか、平均寿命も変わってきています。意欲がある人に社会を支えてもらうことはいいことです。

